

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 評価結果公表票

作成日 平成20年6月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	270500630
法人名	有限会社佐藤器機
事業所名	グループホームあけぼの
所在地	五所川原市稲実字開野177-20 (電話) 0173-33-3171
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(平成19年12月12日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成17年1月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	3.8人

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	階建ての	～ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

## (4)利用者の概要(12月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均	最低	最高	歳	歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人白生会胃腸病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域社会との交流を持ち、安心と尊厳のある生活を送り、住み慣れた地域でより家庭に近い馴染みの住か」、「心の健康をモットーに自立をめざした支援」という地域密着型サービスの役割等を反映させた理念を掲げている。

職員は利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、穏やかな口調や態度で利用者に接するほか、職員間のコミュニケーションを十分に図って日々のケアを提供するよう努めている。また、行政や同業者との連携を取りながら、ホーム全体のケアサービスの質の確保・向上に取り組んでいる。

重度化や終末期の対応に関する指針を整備するほか、看護師を配置して医療面でのケア体制を強化しており、看取り等に関する方針を入居時から利用者や家族に説明して同意を得ている。また、利用者の状況変化等に応じて随時の話し合いを行い、その都度意思統一を図る仕組みを整えている。

## 【特に改善が求められる点】

虐待や身体拘束のないケアを提供しているが、虐待を発見した場合の対応や、やむを得ず拘束を行わなければならない場合の記録様式等を整備してはどうか。また、現在の感染症に関するマニュアルは開設時からのものであるため、現状に合ったものを整備するとともに、必要に応じて随時の見直しを行うことに期待したい。

地域福祉権利擁護事業等に関する勉強会は行っているが、全職員が理解するまでには至っていないので、継続的に内部研修のテーマとして取り上げる等の取り組みを行ってはどうか。また、職員の希望等を把握した上で、外部研修だけでなく内部研修の年間計画も作成することに期待したい。

災害時に備えて日中と夜間を想定した避難訓練等が行われているが、今後は数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意していくことに期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価結果を基に改善に向けた検討を行い、より良いケアサービスを提供できるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議等を通じて評価の意義等について理解を深めており、自己評価は全職員で話し合っ作している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会長や自治会長、行政職員等に働きかけを行い、運営推進会議を開催する準備を進めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況等は面会時や電話などで随時家族に報告している。</p> <p>ホーム内外の苦情受付窓口を玄関に明示したり、苦情箱を設置する等、家族が意見や要望を出しやすいよう配慮している。また、面会時や電話等で何でも話してもらいたいということを伝えており、家族から意見等が出された時は職員間で話し合いを行い、速やかに改善するよう努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩や買い物に出かける際は近隣住民に挨拶し、気軽に立ち寄ってもらえるよう声かけを行っており、近所の子供達が遊びに来る等の関係が築かれている。また、三味線や民謡のボランティア、ヘルパーの実習、高校生のインターシップ等を受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。</p>

## 【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を玄関や事務室に掲示したり、月1回の会議で確認しあう等、全職員への周知・浸透に努めている。また、全職員が理念を日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p> <p>できる限り職員の配置換え等は行っておらず、馴染みの関係で日々のケアを提供している。新しい職員を配置する時は業務を通じて引継ぎを行ったり、利用者への説明を行うなどの対応を行っている。</p> <p>県グループホーム協会や地区のグループホーム協会に加入し、同業者との交流や連携の機会を確保しており、得られた情報等は今後のより良い運営につなげている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居受付段階から利用者及び家族の意向等を聞きだしており、安心してサービスを開始できるよう支援している。</p> <p>利用者と一緒に過ごしたり、家族からの情報を得ながら、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、畑作りや食事の下ごしらえ等、利用者の得意分野では手伝ってもらおう等、利用者と職員が助けあいながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>アセスメントや日々の関わりから利用者の生活歴や好み、希望等を把握するとともに、カンファレンスで職員の見解を出し合って個別具体的な介護計画を作成している。また、6ヶ月ごとの見直しや、状態や希望等の変化時の随時の見直しを行っており、現状に即した内容となっている。</p> <p>医療機関への通院、理美容院や商店等への外出を支援するほか、家族の宿泊希望に対応できる体制を整備する等、利用者や家族の要望に応じた柔軟なケアを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりのペースや体調等を大切にケアを提供するよう努めるほか、天候に配慮した上で、パチンコや外食等、利用者の希望にあわせた外出支援も行っている。また、利用者が生き生きと過ごせるよう、畑作業や食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ等の役割のほか、将棋やトランプ、花札等の楽しみごとを促している。</p> <p>共用空間に畳のスペースやソファを設置する等、家庭的な雰囲気作りを行っている。また、家庭に近い居室となるよう、馴染みの物の持ち込みを積極的に家族に働きかける等の取組みを行っている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は、グループホームは地域に開かれた存在であるものと認識しており、そのことを理念に反映させている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務室に掲示したり、月1回の職員会議で確認し合う等、全職員への理念の周知に努め、日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の方に気軽に立ち寄ってもらえるよう、散歩時に挨拶を交わすほか、近所のスーパーやショッピングセンター、パチンコ店等に出かけて地域との交流を深めるなどの取り組みが行われている。また、ヘルパーの実習や高校生のインターンシップ、民謡や三味線のボランティアは随時受入れており、その際は利用者のプライバシーに十分配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等を通して自己評価や外部評価の意義を職員に周知しており、自己評価は全職員で作成している。また、外部評価の結果を基に改善に向けた検討を行い、より良いケアサービスにつなげるよう取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や自治会長、行政職員等に働きかけを行い、運営推進会議を開催する準備を進めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを配布したり、外部評価結果を報告するほか、運営推進会議の開催に向けた助言を受ける等、行政との連携を図っているが、自己評価結果を報告するまでには至っていない。	○	自己評価結果も報告すると、よりホームの取り組みが行政に伝わるのではないかな。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員が地域福祉権利擁護事業等に関する外部研修に参加しており、研修後は資料の回覧等を行っているが、全職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	内部研修のテーマとして継続的に取り上げる等、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修、日々の管理者からの指導等を通して、どのような行為が虐待にあたるかということについて全職員が認識している。しかし、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等について取り決めを作成し、それを全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書等を基にホームの理念やケアの方針等を利用者や家族に説明し、疑問や意見等があれば丁寧に対応している。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明して同意を得ており、退居時には退居先への情報提供を詳細に行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や毎月の利用料支払い時に、暮らしぶりや健康状態、受診状況等を家族に報告している。また、急変時等は随時電話連絡を行っている。金銭管理状況は個々の出納帳に領収書を添付して毎月報告しているが、職員の異動等については特に問題がなければ報告していない。	○	職員の異動についても面会時や電話等を通じて随時家族に報告してはどうか。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は家族が話しやすいような雰囲気作りを行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書や玄関に明示したり、意見箱を設置する等の取り組みも行っている。家族から意見等が出された場合は職員会議等で話し合っって速やかに対応し、今後のケアサービスに反映させる仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるかぎり配置換え等は行っておらず、馴染みの関係で支援できるよう配慮している。また、新しく職員を配置する時は業務を通じて引継ぎを行ったり、利用者への説明を行うなどの対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修受講後は報告書を作成して伝達研修を行い、全職員に周知している。職員の力量等に 応じた研修に平均的に参加できるよう、外部研修 に関する年間計画を作成しているが、内部研修 について作成するまでには至っていない。	○	職員に理解してもらいたい内容や職員の希望 を把握した上で、内部研修についても年間計画 を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワークづく りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、 サービスの質を向上させていく取り組みを している	県グループホーム協会や地区のグループホーム 協会に加入しており、定期的な交流の機会を確 保し、同業者とのネットワークづくりに取り組ん でいる。また、そこで得られた情報等は今後のケア サービスの質の向上につなげるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを 利用するために、職員や他の利用者、場の 雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談 しながら工夫している	利用者や家族が納得した上でサービスを開始で きるよう、相談受付段階から双方の意見や要望 等を聞きだしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に おかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共 にし、本人から学んだり、支えあう関係を築 いている	利用者と一緒に過ごしたり、家族からの情報を得 ながら、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努 めている。また、畑作りや食事の下ごしらえ等、 利用者の得意分野では手伝ってもらおう等、利用 者と職員が助けあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりを通して個々の意向等を把握している。意向把握が難しい場合は職員間で気づき等を話し合い、希望や思いを把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者や家族、関係者からの意見や意向を十分取り入れるほか、月1回のカンファレンスで出された職員の意見を反映させており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、ケアチェック表を活用しながら6ヶ月に1回の見直しを行っている。また、申し送りノートや個人ケース記録を詳細に記入したり、常に観察を行って利用者の状況を把握しており、変化等がある場合には、実施期間に関わらず、随時の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への通院介助や、理美容院や商店等への外出支援を行うほか、家族の宿泊希望に対応できる体制を整備する等、利用者や家族の要望に合わせた柔軟なケアを提供している。また、現在は新規事業の開発は行っていないが、要望や必要性があれば検討することとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援している。主治医とは随時連絡をとっており、相談等がある時はいつでも対応してもらっている。受診結果は面会時や電話等で随時家族に報告しており、共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに関する指針を整備するほか、看護師を配置して医療面での職員体制を強化している。また、入居時から利用者や家族に説明して同意を得るほか、状態変化等があった時は随時医療機関や家族と話し合い、方針を共有する仕組みとなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた声かけや対応を行い、利用者の自尊心を大切にケアを提供するよう努めている。また、職員は会議等を通じて個人情報保護法について理解しており、個人記録は事務室に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを優先し、一人ひとりのペースに合わせた暮らしを支援している。また、一日のおおまかな流れはあるが、無理強いすることなく、その日の希望や状態に応じた柔軟なケアを提供するよう努めている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を取り入れた食事を提供しており、下ごしらえなどは利用者と職員が行っている。また、昼・夕食は職員も一緒に食事を摂っており、食べこぼし等へのサポートを行いながら、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、希望等に合わせて対応している。利用者の羞恥心や安全面に配慮し、浴室や着脱所には職員を一人ずつ配置しており、必要に応じて介助している。また、入浴を拒否する利用者には無理強いせず、足浴を促したり、時間を置いて再度声がけする等の工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量、意向等を把握しており、山菜の皮むきや畑作業、調理、洗濯たたみ等の役割のほか、将棋やトランプ、花札などの楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を考慮しながら、ホーム周辺の散歩やドライブ、外食等に出かけている。また、パチンコ店など、一人ひとりの希望を取り入れた外出支援を行っている。外出時には、利用者の身体状況やその日の心身の状態等に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修やその後の伝達を通して、全職員が身体拘束に関する理解を深めており、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族に説明して同意を得る仕組みとなっているが、拘束を行う理由や方法、経過観察等を記録する体制にはなっていない。	○	開設以来拘束を行った事例はないが、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて、理由や方法、期間、経過観察等を記録する様式を整備してはどうか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠しておらず、利用者が自由に入ることができる。外出傾向を察知できるよう見守りや声がけを行っており、察知した時は付き添う等の支援を行っている。しかし、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけは行われていない。	○	運営推進会議を活用する等、無断外出時に地域からの協力が得られるような働きかけを検討してはどうか。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて、日中と夜間を想定した避難訓練を年2回行うほか、職員や各関係機関への連絡網を整備する等の取り組みは行っているが、災害発生時に備えた備蓄品が用意されていない。	○	災害時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意していくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の助言を受けて献立を作成しており、栄養バランスやカロリー、水分量に配慮されたものとなっている。また、食事や水分の摂取量は把握しており、必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の流行時には学習会を開催して全職員に周知したり、行政等からの情報を得て、必要に応じて家族にお知らせする等の取り組みを行っている。感染症対応マニュアルはあるが、開設時からのものであり、見直しを行うまでには至っていない。	○	マニュアルの中には古い情報もあるので、一度検討を行い、現状に合ったものを整備してはどうか。また、新しい感染症等に関する情報が入った時などは随時見直しを行っていくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には木が多く取り入れられているほか、畳のスペースや複数のソファが設置されており、家庭的な雰囲気である。また、季節感のある装飾品も置かれている。利用者が気になるような物音はなく、テレビ等の音量も適切である。また、日射しや照明の強さもちょうど良く、快適に過ごせる空間となっている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭に近い居室となるよう、馴染みの物の持ち込みを積極的に家族に働きかけており、利用者や家族、職員が一緒になって居心地良く過ごせる空間作りが行われている。		

※  は、重点項目。